

福島県PTA連合会会報
第16号_S58. 12. 01

大会 主 題

21世紀をになう人間性豊かな子どもの 育成をめざす創造的なP T A活動の推進

福 島 県 P T A 連 合 会

53-5 内 会 館
部 屋 連 合 会
田 部 少 年 会
字 少 年 会
岩 青 少 年 会
黒 島 県 P T A
市 福 島 県 人 刷 行 印
福 島 市 泉 野 13-1
電 話 57-1071



第32回福島県P T A研究大会 原町大会

第三十二回福島県P T A研究大会原町大会は九月十六、十七日の二日間

盛 会 裡 に 終 わ る

にわたって、浜通りの原町市で開催された。

大会主題は「二十世紀をになう人間性豊かな子どもの育成をめざす創造的なP T A活動の推進」であった。第一日目の十六日、原町市体育館における開会行事に引き続き、同体育館及び隣接する市文化センター、原町市役所正庁舎会議室の三会場、六分科会に分れ、二十世紀をになう人間性豊かな子どもの育成をめざし、実践報告、研究発表、熱心な討議を通しP T A活動の発展に大いに寄与する大会となった。

記念講演

演題「歌一筋六十年」

講師 声学家 藤山 一郎 先生

ピアノの服部先生、エレクトーンの桐野先生を伴奏者として、藤山先生の記念講演が九月十七日午前十時四十五分より、一時間半にわたり、主会場の原町市体育館で行われた。

藤山一郎先生は福島市に一泊され、参加者の出迎える中、会場に到着された。



「丘を越えて」や「影を慕いて」以来、数々のヒット曲やテレビで知りつくされている先生であるが、各社のレコード会社を経て現在はNHK音楽部に籍をおかれています。NHK放送文化賞、社会教育功労賞、近年には勲三等瑞宝章他数々の功績があり、現在も日本歌手協会会長を初め、幾多の役職をこなされている。戦前、戦中、戦後と歌い続けられ、明るい歌声は私達の心に絶えることのない灯りをともし続けている。

「豊かな人間性の育成」の理想のもとに参集されたP T Aの皆様と、私のたずさわっている音楽が情操を高める一翼となっているならば、同じ職を得た私達は幸せだ。

音楽に三つの柱、メロディー、ハーモニー、リズムがあるとすれば、リズム、P T A、学校は三本柱、正三角形の関係であらねばならない。長生きすると体の弱かった滝廉太郎先生を思い出す。天才児は体が弱すぎた。知育偏重、体育お忘れの現状がある。体育、教育、徳育(常識)の順で教育されるべきだ。体力がないと学力も遅れる。頑張れる体は耐におきかえることもできる。社会に役立つ人間になるためには学問が必要、学問をするためには健康が大切である。

体を鍛え、アクセント通りの曲を数々聴いて育ち、アイウエオの口形は掛図で、加えて電話の会話で覚えた明瞭な発音、学校でお教え頂いた発声、それで一ぺんで音楽学校に合格できたとするならば、仰げば尊しわが師の恩を感じる。それらのおかげで現在、私は社会に役立つ人間として頑張っているつもりである。何曲もの歌と講演のすばらしさに魅了され、さわやかな余韻が残った。

第一分科会

。テーマ
「創造的な活動を展開するための組織運営のあり方をどうすればよいか。」

。テーマ
「新しい時代に対応するPTAの研修活動をどのようにすすめたらよいか。」

。テーマ
「心豊かな子どもを育てるための家庭教育をどのように充実させたらよいか。」

。テーマ
「心豊かな子どもを育てるための家庭教育をどのように充実させたらよいか。」

。テーマ
「心豊かな子どもを育てるための家庭教育をどのように充実させたらよいか。」

。テーマ
「心豊かな子どもを育てるための家庭教育をどのように充実させたらよいか。」

船引町立門沢小学校は児童数六十名の小規模校で、近年児童数が減少している。門沢小PTAでは、社会状況の変化に応じて、特色ある組織づくりと運営を進めている。

郡山一中PTAでは、各専門委員会が主体的な活動を展開するために、毎月一回運営委員会を開いて、全体的な調整をはかり、さらに、各委員会の場合には、三役の中から担当者が出席し、助言に当たって、自主的・創造的な活動を推進するよう、配慮している。

西郷村立小田倉小PTAより、PTAの研修活動を活発にし、継続していくにはどのような工夫したらよいかについて、研修計画と具体的実践が提示され発表された。

白石小の親子学級は講演とレクを組み合わせ、夫婦出席者も多い。福島二中、出席をよくするには連絡に工夫をするには先生のまとめ

塩川小PTAから、家庭教育において最も必要なことは「愛と模範」である。あらゆる教育的な技術、手段、方法もこれによって正しく働き、真に生きてくる。愛と模範をベースとし、よかれと思う経験や活動を計画的により豊かに与えて、心身ともに健全な子どもを育成したい。

須賀川一小PTAからは「家庭教育を充実させるためのPTA活動の進め方」として、子どもの健全な成長は、家庭と学校の協力と理解、家庭教育のあり方の学習からである。話し合いによる相互理解と研修をPTA活動の中で組織し実践してきたと発表があった。

飯野中PTAも家庭教育の充実が子どもを理解すること、それには話し

会分科会報告

2. 広
報活動
に努力
している。

1. 専門委員会の改廃
2. 会員の主体的活動を
基盤とした事業計画の立案
等である。

大規模校の場合、男性の参加が少ないのは役員
の選出にも問題があるの
ではないか。

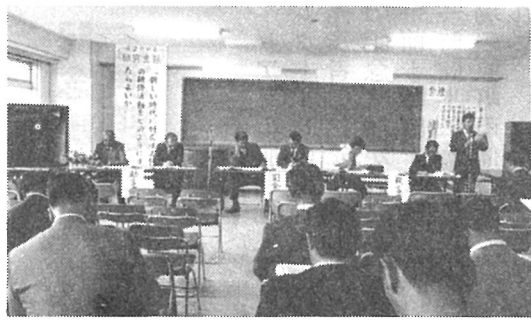
研修活動について
郡山福良小では一日研
修会を午前は分科会、午
後は講演会として実施し
ている。読書活動も十班
で回覧し、活発である。

須賀川一小PTAからは「家庭教育を充実させるためのPTA活動の進め方」として、子どもの健全な成長は、家庭と学校の協力と理解、家庭教育のあり方の学習からである。話し合いによる相互理解と研修をPTA活動の中で組織し実践してきたと発表があった。

飯野中PTAも家庭教育の充実が子どもを理解すること、それには話し

第二分科会

第三分科会



大町原の連県

第四分科会

。テーマ
「人間性豊かな子どもを育成するために文化活動を進めよう」
が、親子クラブ活動は、大きな特色を持ち、古くからの郷土文化を伝承し、地域社会を大切にする考えを育てるため努力している。

か。
飯坂温泉という観光地の中心街にある、福島市立湯野小 P T A では、「身体で奉仕する。金のかからない、地域密着の P T A」を目標にかかげ、P T A の実態を、会員の祖父母や家族の方々に、ひいては会員以外の地域の方々にも十分理解していただくよう、活動を推進している。

育成会も協力する形で、小学生を指導しながら道路清掃を行ったり、地域の文化活動を進めている。授業参観はもちろんだが、親子クラブ活動は、大きな特色を持ち、古くからの郷土文化を伝承し、地域社会を大切にする考えを育てるため努力している。

第五分科会

。テーマ
「子どもたちの豊かな心の育成をめざす地域活動をどのようにすすめるか」
「地域社会の中での健全育成をはかるための補導活動について、会津若松五中 P T A の補導保護委員会から活動事例が出され、更に地育の健全育成活動との結びつきについて発表があった。



中、特に夏休み中の校外補導は、合同会議が開催され、本郷一小 P T A から、「豊かな心の育成をめざす地域活動」について発表があり、行事によって全員が参加したり、分担して世話に当たったり、あくまで子供達の自主性を重んじ、父兄は助言者の立場をとるという親たちのかかわり方が説明された。

第六分科会

。テーマ
「心身に障害をもつ子どもの教育を P T A 活動の中でどのように理解し、協力すればよいか」
いわき市錦中 P T A より、養護教育の本質を知ってもらうため
1. P T A の役員は、手をつなぐ親の会に入ってもらおう。
2. P T A 新聞に養護教育コーナーを作る。
3. 学級懇談会の中で小中学校 P 合同の懇談をする。



等の活動をしている。
障害児をもつ親だけの問題ではない。社会全体で協力し、障害児の自立をはかる必要がある。
月舘小 P T A からは、就学指導審議会で就学をすすめても入級させるのに容易でない。困っている人の話を何人かのグループの中で聞き、話し合い、その障害をとりのぞく輪を広げている。
浪江中 P T A では養護教育の充実をはかるため
1. 保護者同志の情報交換
2. P T A の各会合に資料配布
3. 地区育成会への動きかけ
等の運動をすすめている。一般児童・生徒と特殊教育を受けている児童・生徒とは、同じ目標で、同じ教育を受けているのだということを認識し、一人ひとりの障害児に合った教育をしていくのだということを知って欲しい。

桑野小P会長
大川原 実

川俣小P副会長
水口 ミキ

県PTA大会は「21世紀をにう人間性豊かな子どもの育成をめざす創造的なPTA活動の推進を主題として、二千名が参集して開催された。

各分科会では、各単Pから実践報告がなされ、討議がかわされたが、内容はいずれも子どもの健全育成を願う会員の切なる心情がくみとれるものであった。

全体会における助言者の指導の中に、①PTA活動

原町大会に参加して

助言者のまこと

は、もっと地域の公民館と密接な関係をもつていくべきである。②家庭教育、社会教育の分野を、学校教育にもちこまないように、という二点が、大変印象に残った。

これは、郷土を愛する子どもを育成するため、地域に根ざした方向づけを示唆してくれたものと受けとめた。

最後に、藤山一郎さんの歌一筋に生きる姿に深い感銘を受け、頭の下がる思いがした。

二日間の大会の目標・内容をあますところなく盛りこんだ大会宣言文の一言一句は、強く胸をうつものであった。

常々、人間形成の場としての学校、家庭、地域社会の有機的連携の必要性を感じているが、いずれの地区でもかかえてい

る子どもの健全育成の今日的課題とPTA活動の

まず三人の実践発表があり、それに対する活発な質疑応答が交され、最後に

大会事務局の声

原町市において第32回福島県PTA研究大会開催が決定され、57年12月に早速準備委員会を結成して、活動を開始した。

大会当日、各分科会の運営はきわめてスムーズにできたようである。また市役所職員駐車場を空けて頂くなど、大会運営のために、原町市長さんをはじめ、市当局の格別のご配慮に感謝している。

受賞者

長年に亘るPTA活動に対する功績を讃え、下記の個人団体に、感謝状並びに表彰状が授与された。(敬称略)

松本芳緒(同) 赤城孝一(同) 渡部伊門(同) 細井玲一(同) 池津絃堂(同) 稲生幸子(同) 山縣昇(同前会計部長) 橋本隆夫(同前研修部長) 加藤哲夫(同前広報部長) 下山政一(福島連P前事務局長) 小林四郎(達南連P同) 酒井和右門(伊達連P同) 須釜守幸(岩瀬連P同) 南條知一(石川連P同) 斎藤七郎(田村連P同) 松本春帆(東白川連P同) 林俊(若松連P同) 楠孝順(北会津連P同) 佐藤聰(両沼

連P同) 夏井久悦(耶麻連P同) 佐藤武(南会津連P同) 草野文弥(双葉連P同) [表彰状] 菅野久俊(福三小P前会長) 外百三名 △団体▽福島市立四中P、吉井田小P、湯野小P、川俣町立小綱木小P、国見町立藤田小P、二本松市立鈴石小P、同三中P 岩代町立新殿小P、本宮町立本宮中P、郡山市立安積第三小P、同桃見台小P、同安子島小P、同片平中P、同二中P、須賀川市立阿武隈小P、同二中P、天栄村立天栄中P、石川町立中谷一小P、同川辺小P、浅川町立里白石小P、古殿町立大久田小P、船引町立門沢小P、小野町立小野中P、会津若松市立永和小P、同赤井小P、同湊中P、同五中P、いわき市立豊間中P、同好間三小P、同江名小P、同小名浜、同川中P、同磐崎中P、同川部小P、榎葉町立榎葉南小P、大熊町立大熊中P、相馬市立桜丘小P、鹿島町立上真野小P、原町市立大甕小P 以上 三十八単P

第 31 回全国 P T A 大会に参加して

— 阿波路に見た



県連 P 研修部長 下山 政一

「豊かな未来をめざし、子どもとともに成長する P T A を推進しよう。」をスローガンに開催された第三十一回全国 P T A 研究大会は、炎暑に燃えた八月二十九・三十日の二日間、「踊りと渦の徳島市」で、盛大に開催された。

全国からの参加者は、七千名を数え、徳島市民挙げての歓迎ムードに、感激しながら二日間の真摯な研修に励んだ。本県よりは、県連 P 会長を陣頭に、郡山市連 P 会長、同副会長、それに私の四名が参加した。

第一日の日程は、全日分科会に終始した。市内の中心地にある郷土文化会館等の各施設を利用して、10 分科会に分れて行われた。私の参加した第二分科会は、六百名を越す大集会であり、一日ねばる覚悟で最前列に坐る。家庭教育に関する部会でその研究内容は、1. 家庭教

育における親の役割 2. 家庭におけるしつけの問題 3. 家庭における性教育への取り組みについてであった。

静岡、札幌、愛媛の代表者の問題提起は、内容的を得ており、傾聴させるものがあった。助言者からも親の役割について、いろいろと指摘されたが、共に悩む親になることの必要性が強調されていた。特に性教育については、親は情報過多の中で、正しい性教育の知識を持ち、広い意味での心の教育の中に入れていくべき、というすじ論は、納得のいく結論であった。

郷土芸能の魅力「人形浄瑠璃」の一幕にふれたのは、昼のアトラクションの時間である。「傾城阿波の鳴門、巡礼歌の段」の一筋を観劇した。見るも涙、語るも涙の大熱演である。文化財として継承されてはいるが、この

ような素朴な伝統芸能は、いつまでも残していきたいものと思った。

第二日目は全体会である。徳島市立体育館を埋めつくした中で、文部大臣をお迎えしてのセレモニーも盛大であった。分科会報告、全体討議と進むにつれ、日 P 大会に参加したという意識が、次第に高まっていく思いがした。記念講演にたった小野清子先生の「親ごころ」と題したお話も素直に拝聴できた。

二日目のアトラクションも圧巻だった。市民の連が会場一杯に踊りまくった。徳島といえば阿波おどり、といわれる程有名。軽妙な足の運び、手のふりにつられて会場総立ちである。阿波を訪れた実感を満喫することができた。

去る九月九・十日仙台市にて開催されました第十五回東北 P T A 研究会に、福島県母親委員代表として参加させて頂きました。特に、八日(大会前日)午後四時から開かれた東北ブロック母親委員会には、かねがね各県の母親委員会の動向を伺いたいと思っていましたので、又とない機会でした。

——と申しますのも、母親委員会の名前と存在を知り拘わりを持ちましたのが、昨年の母親委員代表稲生幸子さんの報告をお聞きしてからのことでした。日 P 母親委員会に於いて、各県 P に独自の方法で運営活動を行ない、ブロック毎の連携が密である事。組織のない県は、宮城、福島、山形、岩手の四県であり、東北ブロック母親委員会

が極めて心もとない現状を言うことでした。そして、稲生さんの熱い組織化への願いも、任期一年にして形になりませんでした。

今年度六月、私も日 P 母親委員会に出席しまして、同じ感慨を得てまいりました。

その後、日 P 母親委員の資料を読み、一方青森県代表の方から、青森県母親委員会の状況をお聞きして参考にさせて頂き乍ら、ようやく母親委員会なるものが判って来たような訳でした。

さて、この様な過程を経て来ましたので、今回 P の会則に、母親委員会の設置が謳われています。そして、P T A 活動の実際の担い手は殆んど母親であり乍ら、指導者の大半が男性であるため、母親の声を反映させるパイプ役が必要であり、母親としての、自覚と教養を高める足がかりとしての母親委員会の位置づけ等、考えられる。が、今一つ組織化への強いメリットに、食い込みたいものと考えております。幸いにも、県 P 阿部会長の、暖かく強いお力を頂きまして、福島県 P 母親委員会の組織化への明るい見通しがもたらされていきます事は、この上とない豊潤な時期と心引き締めしております。

母親委員会の動向から



— 東北ブロック 母親委員会に出席して — 大妻小 P T A 副会長 長沢 利枝

の東北ブロック各県の動向は、青森県の組織五年目は別と致しまして、組織化への手探りを懸命に行っている宮城県、福島県、母親委員代表のない山形県、岩手県、発展的解消の秋田県と各県 P の有様をそれぞれのぞかせていただきました。又、この会に、わざわざご出席頂きました日 P 岩橋会長、日 P 茅野昭子母親委員長より、母親委員会の必要性をお話し頂き、話し合いの中から、東北ブロックの現状を考えますと、組織化に對しましては、各々の県 P の状況に沿った方法で、県 P 理事のご配慮を得て、一步一步進めていくことこそ大切と確認致しました。そのためには、何故母親委員会が必要なのかを、しっかりとらえなくてはなりません。日 P の会則に、母親委員会の設置が謳われています。そして、P T A 活動の実際の担い手は殆んど母親であり乍ら、指導者の大半が男性であるため、母親の声を反映させるパイプ役が必要であり、母親としての、自覚と教養を高める足がかりとしての母親委員会の位置づけ等、考えられる。が、今一つ組織化への強いメリットに、食い込みたいものと考えております。幸いにも、県 P 阿部会長の、暖かく強いお力を頂きまして、福島県 P 母親委員会の組織化への明るい見通しがもたらされていきます事は、この上とない豊潤な時期と心引き締めしております。

＜達南＞

自ら考え、行動する
子供の育成をめざして

飯野町立大久保小学校PTA

本校は、創立以来百有
余年の歴史を持っていま
すが、その教育目標の中
で、一貫して強調されて
きたことの一つに、「自
ら考え、行動する子供の
育成」があります。

PTAとしても、この
線に沿った事業を毎年度
必ず組み込み、これまで
多少なりとも成果を収め
てきました。そのうちの
幾つかについて、御紹介
したいと思えます。
一、子供集団研修



(楽しいキャンプ風景)

夏休みを利用しての、
一泊二日のキャンプです。
夕方、親子で校庭に集
合し、子供を中心に、テ
ント張り、食事の準備を
します。楽しい夕食が終
わる頃夕闇が迫り、いよ
いよキャンプファイヤー
の時間です。明々とした
火のまわりで、子供たち
自身が考え、練習してき
た出し物が、次から次へ
と演じられます。子供た
ちの目が輝きます。三年
生以下は帰宅し、四年生
以上がテントで一夜を明
かしますが、このキャン
プにより、子供たちの自
主性、協調性が、とみに
増すように感じられます。
二、親子いも煮会

これは、学校の授業の
一環です。近くの見晴ら
しのよい山で、毎年十月
に行われますが、平日に
もかかわらず、多くの親
たちが参加します。いも
煮の方は、自立性の高揚
のため、たきぎ集めから
味つけまで、なるべく子
供たちに委せます。いも

が煮上るまで、親たちは
広場で、各班ごとに輪に
なり、子供たちを心豊か
に、健やかに育てていく
ための方策をはじめ、ざ
つくばらんに、何
でも話し合います。
そのあと揃って食
事をし、食後は、
子供たちの考えた
遊びで、親子が興
じます。

三、親子創作教室
毎年二月の日曜
日、父親学級の際
に行っています。
タコや竹馬、罐下
駄、竹トンボなど、
作るものを年ごと
に選び、各自工夫
しながら、教室で
親子いっしょに作
業をします。完成
後、校庭に出て、
みんなで遊びます。
この創作教室のの
ち、子供のみの手
で、タコヤ竹トン
ボを作らせる家庭
が、随分多くなり
ました。

以上ですが、心身共に
健やかで、自主性のある
子供の育成をめざし、今
後も引き続き努力してゆ
こうと思っております。
市側と協議のもと月一回
また、自分の地区内に
市立公園のある方部では
きれいなって行く。

特色あるPTA活動

＜郡山＞

方部活動と学年活動の
充実をめざして

郡山市立桑野小学校PTA

本校PTA活動
の重点事項として
方部活動と学年活
動の充実という点
に力を入れている。
まず方部活動で
あるが、方部委員
会が中心となって
年間計画を立案し、
具体的な活動を運
営している。その
なかに、毎月一回
日曜日の早朝に親
子で自分の方部の
清掃作業を行って
いる。作業衣に身
支度を整え、「お
早うございます。」
の声をかわしながら
集合し、方部長
の説明のあと、道
ばたの除草や下水
のどろさらいな
大人と子どもがそ
れぞれの能力にあ
った作業を分担し
て行っている。

公園清掃を行い市より還
付されるお金を方部活動
に当てるなどして、奉仕
作業を通して公德心を培
い、地域愛から郷土愛へ
と子どもの心を育てよう
と考えている。さらに、
地域の人々との接触する
機会を多くすることによ
って会員相互の理解を深
めながら親睦を図ること
ができるとともに、近所
の子どもと話すことも多
くなってきた。そのため
子どもも親もお互いに、



(親子で公園掃除)

二学期には各学年ごと
に親子で運動したり、作
ったり、学習したりでき
る学年活動の日を設けて
いる。親子が手をつない
でダンスやなわとび、ボ
ール運動等に汗を流した
り、お手玉や竹馬作りに
苦勞し、できあがったお
手玉で遊んだり、竹馬に
乗って遊ぶ生き生きした
姿に、PTA活動の原点
をみる思いがする。
これからも、健やかな子
どもの育成をめざして頑張
っていきたいものです。

顔を知り、気心もわかり
親しみをもって接するよ
うになり、挨拶や言葉を
かわし合うようになって
きた。おかげで方部活動
も大へん成果があがって
きている。
そのほか、球技大会、
地区の補導、親子旅行な
ど大へん活発に活動して
いるが、方部委員会や方
部長会では各方部の情報
を交換すると同時に行き
過ぎた活動に走ったりし
ないように注意し合っ
ている。
次に学年活動としては、
学年委員長を中心に各種
の研修会に参加し教養を
たかめあっている。

< 若 松 > 共に語ろう 未来にはばたく子供たちを!!

会津若松市立城西小学校 P T A



(担任の先生を囲んで)

城西小学校は鶴ヶ城で名高い会津若松市の西部地区に位置し、児童数一四四〇名の学校である。本校 P T A は学校と家庭、地域社会のパイプ役としての使命感のもと、「城西っ子」の育成のために学校と緊密なる連携のもと「共に語ろう、未来にはばたく子供達を」を基本テーマとして活動を続けている。

各専門委員会の活動は次のような内容で活発な

- 1 文教委員会
 - 史跡めぐり
 - クラブ活動(華道、書道、美術工芸)
- 2 厚生委員会
 - P T A 図書購入運営
- 3 設備委員会
 - ベルマーク収集
 - 校内奉仕作業
- 4 補導委員会
 - 学区内危険箇所点検
 - 祭礼時など補導
- 5 交通安全委員会
 - 城西小交通安全母の会の活動と連携
- 6 学年代表委員会
 - P T A 一日入学
 - 学年行事
- 7 広報委員会
 - 広報紙「かわかぜ」発行(年六回発行)

交通安全委員会は児童の交通事故ゼロの日が永久に続く事を願い昨年度新設された委員会です。そのまま城西小交通安全母の会として対外的にも交通

安全の運動を活発に進めている。尚、この委員会設立にはいわき市植田小 P T A の皆様より色々とお御教示をいただいておりますので紙上をお借りし厚く御礼申し上げます。

両親学級は「かわかぜ学級」と名付けている。講師の先生より基調講演をいただき、その後クラス毎、小グループにわかれてバズセッションを行い各学年委員長が意見をまとめて発表、講師先生より全体指導を受けている。今年「楽しい家庭を求めて」というテーマで会津児童園の長谷川園長先生より御指導をいただいた。

その他家庭教育学級は参加学級生によりすべて自主的に運営されている。城西小 P T A は、本校のめざす児童像「城西っ子」実現のため先生と親とが協力し着実な活動を展開している。

特色ある P T A 活動

< 北会津 >

子どもとの「ふれ合い」を 深める P T A 活動の推進

河東町立河東第三小学校 P T A

本会では、四月の総会において「規約」の改正をはじめ、これまでの組織や運営のあり方を見直し、今日的課題に即応した活動を推進し、その充実を図っていくことにした。

以下その一端を記してみたい。

- ◆活動方針
1. お互いに学び合い、子どもにとって頼りがいのある父母や教師になろう。
 2. まず範を示しうしろ姿で導ける父母や教師になろう。
 3. うるおいと思いやりのある環境(家庭・学校・地域)を与えよう。

「子どもとのふれ合いを深める P T A 活動を推進しよう」

とくに、今日の子どもたちをめぐる問題行動やその原因を考えてみるに「ふれ合い」の欠除、つまり、子どもどうしのふれ合い、親や家族とのふれ合い、先生とのふれ合い、地球の人々とのふれ合い、さらには自然とのふれ合いなど、その場や

てやれる父母や教師になり、という三つの柱、つまり「学び合い、導き合い、整い合う P T A 会員になろう。」

機会が少なくなり、しかも表面的で浅いものになってしまったのではないか?

「ふれ合い」または「ふれ合う」ということは「お互いの間にすき間のない状態」をつくり出すことであり、「すき間」のない状態からは非行も暴力も生まれないのであるか……と考えたわけである。

- ◆活動状況(事例)
1. 花いっぱい運動
 - 各部落ごとに部落内の一角に親と子の共同による花だんづくり
 2. 公共の場の美化運動
 - 各部落ごとに部落内の道路や公共物周辺のあきかんや危険物類を親と子がいっしょになつて拾う。(年三回)
 3. あいさつ運動
 - まず、家庭内でのあいさつ、そして地域内でのあいさつへと広げていく運動の促進
 4. 親子登山
 - 秋の雄国沼探勝
 5. 親と子の小運動会
 - 学年混合の子どもたちと親たちによるゲームなどを実施している。

「子どもとのふれ合いを深める P T A 活動を推進しよう」

県PTA安全互助会だより

死亡事故多発

半年で二十名

加入率一段と上昇

県連Pの一事業として... 加入率をいまだき、今や七〇パーセントの壁を越えようとするまでに上昇した。次の加入状況は、各地区加入状況一覽である。

只一筋に健全の成長を願う、全身全霊育んできたわが子が、一瞬のことで尊い命を失うことは、まことにむごく悲しいことである。本年も四月から九月まで、本県小中学生の学童で、僅か半年で事故のみで二十名の犠牲者がでてゐる。(内訳・交通事故死亡十一名、水死六名、事故死三名)

昭和58年度PTA安全互助会加入状況 (58.10月現在)

Table with columns: 区分, 小学校, 中学校, 合計. Rows: 福島, 達南, 伊達, 安達, 郡山, 岩瀬, 石川, 田村, 西白河, 東白川, 若松, 北会津, 両沼, 大沼, 耶麻, 南会津, いわき, 双葉, 相馬, 合計.

() は幼稚園数、養護学校は含まない。

第7回子どもの災害

事故防止ポスター

募集(実施要領)

主催 福島県PTA連合会 安全互助会 後援 福島県小学校校長会 同 福島県中学校校長会 対象 福島県小・中学校児童生徒 応募規定 表現は自由。標語を入れる。四ツ切画用紙

各学年五点以内 応募締切 昭和五九年一月末日 提出先 県PTA連合会事務局 入選発表 昭和五九年二月中旬 福島民報・福島民友 県連Pしんぶん掲載 優秀作品表彰 特賞・金賞外記念品を添えて表彰する。

大沼・南会津地区一〇〇パーセント加入

大沼・南会津地区は、地区連P役員をはじめとし、各小・中学校PTAが日頃、学童並びに会員の安全互助に努めており、本会の趣旨に賛同し、全校加入されたものである。他地区も年々上昇していることは喜ばしい。



全国小・中PTA広報紙

コンクール佳作入賞

福島市立清明小学校PTA



会長・役員ハンドブック PTAのすすめ 購入申込みについて

各小中学校PTA各位においては、既に申込みされたところもあると存じますが、日Pでは責任をもって入門編・実践編資料編の三章からなる、会長・役員ハンドブックを編集しております。県連P役員会においても、益々PTAの果たす役割が次第に高まる今日、各単Pで二・三冊の外個人持ちなど、購入申込みされることを期待してゐる。

編集後記

発行が予定より遅れたが、会報16号をお届けする。今号は、第32回県P原町大会の特集号として、事務局には会報作成にも大変ご協力いただいた。心から感謝する次第である。相馬野馬追と民謡のふるさとでの県大会は、参加者二千二百余名。画期的な大会であった。都合で参加できなかった方、雰囲気だけでも、紙面から汲みとってほしい。